

東京裁判：通州事件に関する日本軍人の証言

② 通州救援第二連隊歩兵隊長代理 桂 鎮雄 陸軍少佐

国立国会図書館法廷証番号 2499：桂 鎮雄 宣誓供述書／弁護側文章番号1139

極東国際軍事裁判 (1947) p 172

国立国会図書館憲政資料室所蔵マイクロフィルム

私は元陸軍少佐で現在千葉県夷隅郡千町村字能実に住んでおります。私は昭和十二年七月（一九三七年）の際、救援の為通州に派遣せられた第二連隊の砲兵砲中隊長代理を致しておりました。通州に七月三十一日午前二時半に到着し現地の掃討に従事し通州に於ける日本人居留民の虐殺の跡を見ましたので左に之を陳述致します。尚当時撮影した写真は提出しておりませぬ。

一、私は七月三十一日午前八時頃、旅館錦水楼に参りました。錦水楼の門に至るや、変り果てた家の姿を見て驚くと共に屍体より発する臭気に思はず嫌な気持ちになりました。玄関の扉も家の中の障子も家具も取り毀され門の前から家の奥まで見透すことが出来ました。

入口に於て錦水楼の女将らしき人の屍体を見ました。入口より廊下に入るすぐの所で足を入口の方に向け殆ど裸で上向きに寝て顔だけに新聞紙が掛けてありました。

本人は相富に抵抗したらしく、身体の着物は寝た上で剥がされた様に見え、上半身も下半身も暴露しあちこちに銃剣で突き刺したあとが四つ五つあった様に記憶します、これが致命傷であったでせう。

陰部は刃物でえぐられたらしく血痕が散乱して居ました。帳場や配膳室の如きは足の踏み込み場所もない程散乱し掠奪の跡をまざまざ見せつけられました。

廊下の右側の女中部屋に女中らしき日本婦人の四つの屍体があるを見ました。全部藻掻いて死んだ様でしたが銃殺の故か屍体は比較的綺麗であって唯、折り重つて死んで居りましたが一名だけは局部を露出し上向きになって死んで居ました。

室内の散乱は足の踏み場所もない程でありました。

次に帳場配膳室に入りました、ここに男一人、女二人が横倒れとなり或はうつぶし或は上向いて死んでおりこの屍体は強姦せられたか否かは判りませんが闘った跡は明瞭で男は目玉をくりぬかれ上半身は蜂の巣の様でありました。女二人は何れも背部から銃剣をつきさされた跡が歴然と残って居りました。

次に廊下へ入りました。階下座敷に女の屍体二つ、これは殆ど身に何もつけずに素っ裸で殺され局部始め各部分に刺突の跡を見ました。

次に二階に於て四五人の屍体を発見、これは比較的綺麗に死んでおり布団をかぶせてありました。唯脚や頸や手が露出しておるの見ましたが布団をはがす気にはなれませんでした。

池に於て二三人の屍体が浮んで居るのを望見しましたが側へ行って見る余裕はありませんでした。

二、市内某カフェーに於て、

私は、一年前に行ったことのあるカフェーへ行きました。扉を開けて中へ入りましたが部室は散乱しておらずこれは何でもなかつたかと思ひつつ進んだ時、一つのボックスの中に、素っ裸の女の屍体がありました。これは縄で絞殺せられておりました。

カフェーの裏に日本人の家がありそこに二人の親子が惨殺されて居りました子供は手の指を揃えて切断されて居りました。

三、路上の屍体

南城門の近くに一日本人の商店がありそこの主人らしきものが引っぱり出されて、殺された屍体が路上に放置されてありました。これは胸腹の骨が露出し内臓が散乱して居りました。